

昭和57年度中近東アフリカ計画に
基づく石油化学工業(準高)集団
研修コース(No.86)

実施報告書

昭和58年3月

国際協力事業団
研修事業部

0
8
T
ARY

研 三
J R
83-1

日本国政府	
発行 58.6.28	300
月日 '84.5.23	68
登録 No. 07221	TAT

は じ め に

石油化学工業研修コースは、日本政府の開発途上国に対する技術協力事業の一環として、石油化学工業協会をはじめとする石油化学工業関連企業各社の協力の下に、昭和50年よりこれまで通算8回実施されて来ました。

研修参加者は、中近東・アフリカ中南米の主に産油国の石油化学工業分野に於いて実際に関連業務に従事する中堅・上級技術者、石油化学工業開発プロジェクト関係者、石油化学工業関連政策立案者、等であります。

これら中近東・アフリカ諸国に寄せられる技術協力に対する要望は強く、本コースもそれに應えるべく開設されているものですが、同時にこれらの国々との友好協力関係の強化にも、重要な役割を果たしてきたものと確信いたします。

今般本コースの実施概要報告にあたり、多大のご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和58年3月

国際協力事業団

研修事業部長 山 村 寛

JICA LIBRARY



1043762[2]

目 次

1. 昭和57年度実施状況報告	1
1) 研修期間	1
2) 研修日程概要	1
3) 研修員応募概要	2
4) 研修実施協力機関	4
5) 添付資料	5
(1) 研修日程表	5
(2) 参加研修員リスト	7
(3) 講師氏名リスト	9
(4) 研修旅行日程	11
(5) 講師派遣先企業リスト	12
(6) 見学先リスト	18
(7) カントリーレポート	15

1. 昭和57年度実施状況報告

1) 研修期間

昭和58年1月27日～昭和58年3月11日

2) 研修日程概要

実施概要	日数
1. JICAブリーフィング	0.5
2. JICA一般オリエンテーション	4.5
3. 専門講義	12.5
4. 関連工場見学(東京周辺)	4.0
5. 関連工場見学(中部・関西地方)	3.0
6. 顔合せ懇談会・技術討論会	1.0
7. カントリーレポート	0.5
8. 評価会・閉講式	0.5
計	26.5

研修員は新宿のホテルに宿泊する一方、当事業団実施の来日時ブリーフィング及び一般オリエンテーション(日本の文化・社会、経済一般)を受けた後、別添の研修日程に沿って「東京インターナショナル・センター(TIC)」において専門講義に参加した。その間、石油化学工業関連施設を見学した。研修期間中の不明点等の解消を目的として中間期に、講師陣と全研修員との質疑応答を行った。又、研修評価会には講師陣も加わった。

研修を終了するにあたり3月9日(水)TICにて閉講式を行ない、当事業団関係者はじめ通産省、石油化学工業協会の関係各位並びに講師の方々の出席の下に、研修員全員に修了証書を授与した。

3) 研修員応募概要

(1) 参加研修員(9名)の国籍, 年齢, 現職等

別添資料の通り。

(2) 別表の通り, 定員12名, 割当18カ国15名に対して11名の応募者があったが, その内, イラクは要請を取下げ, 一方モロッコは2名の応募者を要請越したが, 1名は専門分野に難点があり, 不合格とした。

(3) 過去7回の受入実績

年 度	5 0		5 1		5 2		5 3	
定 員	1 2		1 2		1 2		1 2	
期 間	11.6～12.20		11.4～12.18		3.16～4.29		3.1～4.14	
割当国	実績/割当		実績/割当		実績/割当		実績/割当	
	割当	実績	割当	実績	割当	実績	割当	実績
アルジェリア	0	0	1	0	1	1	1	1
エジプト	2	1	2	1	1	2	1	1
イラン	0	0	2	3	2	2	2	0
イラク	3	1	2	0	2	2	2	2
クウェート	2	2	2	1	2	1	2	1
リビア	3	2	2	0	2	1	2	1
オマーン	0	0	1	0	1	0	1	0
カタール	0	0	1	0	1	0	1	0
サウジアラビア	3	0	2	1	2	2	2	0
スーダン	0	0	0	0	1	1	1	1
トルコ	0	0	0	0	1	1	1	0
アラブ首長国連邦	1	0	1	0	1	0	1	1
計	14	6	16	6	17	13	17	8

年 度	5 4		5 5		5 6		5 7	
定 員	1 2		1 2		1 2		1 2	
期 間	2.28～4.12		2.26～4.10		1.28～3.12		1.27～3.11	
割当国	割当／実績		割当	実績	割当	実績	割当	実績
アルジェリア	1	1	1	1	1	1	1	1
バハレーン	1	0	0	0	1	0	0	0
エジプト	0	0	1	0	1	1	1	0
イラン	2	1	2	0	0	0	0	0
イラク	2	0	2	0	2	1	1	0
ジョルダン	0	0	1	1	1	1	1	1
クウェート	2	0	1	1	1	1	1	1
リビア	1	0	2	0	1	0	1	1
レバノン	0	0	1	1	1	1	1	0
モロッコ	0	0	1	1	1	1	1	1
オマーン	0	0	1	0	1	0	1	0
カタール	2	1	1	0	1	1	1	1
サウジアラビア	2	0	2	1	2	2	1	1
スーダン	1	1	1	1	1	1	1	1
シリア	0	0	1	1	1	0	1	0
アラブ首長国連邦	2	1	1	0	1	0	1	0
トルコ	1	1	1	0	0	0	0	0
ヴェネズエラ	0	0	0	1	0	0	1	1
計	17	6	20	9	17	11	15	9

4) 研修実施協力機関

(1) 政府機関および関連団体

通商産業省 通商政策局技術協力課
◇ 基礎産業局基礎化学品課
(財) 造水促進センター

(2) 民間団体

石油化学工業協会

(3) 民間協力企業

日揮㈱, 三井東圧化学㈱, 三菱油化㈱, 東レ㈱, 三井石油化学工業㈱,
住友化学工業㈱, 旭化成工業㈱, 日本合成ゴム㈱, 日本石油化学㈱,
三菱化成工業㈱, 日本触媒化学工業㈱, 積水化学工業㈱, 積水化成品
工業㈱, トヨタ自動車工業㈱, ブリジストン・タイヤ㈱, 千代田化工
建設㈱, ライオン㈱, 旭硝子㈱, 石川島播磨重工業㈱, 宇部興産㈱

5) 添付資料

(1) 研修日程表

月日	曜	午	前	午	後
1/27	木	来日			
28	金	フリーフィング			
29	土				
30	日				
31	月	オリエンテーション			
2/1	火	"			
2	水	"			
3	木	"			
4	金	"		顔合せ懇親会	全 講 師
5	土	科学技術館	見学		
6	日				
7	月	総 論	平川 秀 春	総 論	平川 秀 春
8	火	日本の石油化学	灰谷 佳 朗	カントリレポート	市 東 正 利
9	水	設立基盤(流通, インフラ)	大内 孝 夫	設立基盤(政府・教育関係)	武 藤 伸 次 郎
10	木	日揮(横浜)	工 場 見 学	造水促進センター(茅ヶ崎)	見 学
11	金	祭日			
12	土				
13	日				
14	月	オレフィン・BTX	跡 部 邨 彦	LDPE	大 橋 俊 英
15	火	HDPE	片 岡 輝 彦	PP	木 口 智 司

月日	曜	午	前	午	後
2/16	水	三井石油化学工業	千葉工場 見学	午前と同じ	
17	木	アンモニア	吉村哲郎	メタノール	江口知己
18	金	SM・PS	登原明史	塩ビ(ポリマー, モノマー)	上尾敬三
19	土				
20	日				
21	月	ブダジェン・合成ゴム	寺西 不	洗 剤	奥村 統
22	火	電解	斉藤 修	ED・EG	平井 尚夫
23	水	プリジスタントナイヤ		東京工場	見学
24	木	メイソテナンス	高岩和雄	環境問題	上尾敬三
25	金	保安	川副正人	技術懇談会	
26	土				
27	日				
18	月	TPA・DMT・合成繊維	土屋泰昭	東レ三島工場	見学
3/2	~3/5		関西方面研修旅行		土屋泰昭
6	日				
7	月	計画と立案	鈴木滝之	建設と管理	芝尾 紘一
8	火	世界の石油化学	日下芳春	日本の役割	高橋克行
9	水	千代田化工建設	見学	エヴァリュエーション・ミーティング	17:30閉講式
10	木		帰国準備		
11	金		最終帰国日		

LIST OF PARTICIPANTS

JICA GROUP TRAINING COURSE

IN

<p>Director Economic Development Dept. Off. Royal Commission for Jubail and Yanbu P.O. Box 121 Jubail Industrial City Saudi Arabia Res. P.O. Box 346 Dhahran Air-Port Saudi Arabia</p>	<p>Head of Industrial Group Off. National Energy Administration P.O. Box 2649, Khartoum, Sudan Res. P.O. Box 52 Wad Medani Sudan</p>	<p>Process Engineering Supervisor Off. Petroquimica De Venezuela Carretero Moron Coro. Moron Edo Carabobo, Venezuela Res. Carrera 12 N° 57A-14 Barquisimeto Edo Lara Venezuela</p>
---	---	--

LIST OF PARTICIPANTS

JICA GROUP TRAINING COURSE

IN

PETROCHEMICAL INDUSTRY FOR AFRICA & MIDDLE EAST COUNTRIES FY 1982

<p>ALGERIA</p> <p>Mr. Mohamed BEKKARA</p> <p>Ass't. Manager SONATRACH</p> <p>Off. SONATRACH Complexe Methanol & Resines Synthetiques Bp 33 Arzew, Algeria</p> <p>Res. Perret Bte No. 41 Oran-Algerie, Algeria</p>	<p>JORDAN</p> <p>Mr. Sami M. SAID</p> <p>Chem. Engr. Head Committee of Chem Indust., Directorate of Standards</p> <p>Off. Ministry of Industry & Trade Directorate of Standards P.O. Box 2019 Amman, Jordan</p> <p>Res. Same as above</p>	<p>KUWAIT</p> <p>Mr. Mohammad J. AL-SHAWAF</p> <p>Acting Petrochemical & Fertilizer Controller (Chief Engr)</p> <p>Off. Ministry of Oil P.O. Box 22795 Safat, State of Kuwait</p> <p>Res. P.O. Box 25262 Safat, Kuwait</p>
<p>LIBYA</p> <p>Mr. Hammouda S. MOSHAMMER</p> <p>Head of Technical Research Dept GCCCI</p> <p>Off GCCCI, Abukemash</p> <p>Res 120 Km West of Tripoli Jamaal/Hamda Hamda's Preparatory School</p>	<p>MOROCCO</p> <p>Mr. Mohamed BENNANI</p> <p>Maintenance Manager</p> <p>Off. Societe Nationale d'Electrolyse et de Petrochimie Mohammedia Morocco</p> <p>Res. 8 Rue de Beziers CIL Casablanca Morocco</p>	<p>QATAR</p> <p>Mr. Saleh A. HIJI</p> <p>Ass't to Maintenance Manager</p> <p>Off. Qatar Petrochemical Co., Ltd. (QAPCO) P.O. BOX 756 Doha, Qatar</p> <p>Res. P.O. Box 476 Doha, Qatar</p>
<p>SAUDI ARABIA</p> <p>Mr. Hamdan A. AL-HAMDAN</p> <p>Director Economic Development Dept.</p> <p>Off. Royal Commission for Jubail and Yanbu P.O. Box 121 Jubail Industrial City Saudi Arabia</p> <p>Res. P.O. Box 346 Dhahran Air- Port Saudi Arabia</p>	<p>SUDAN</p> <p>Mr. Ismail ELSHAFEI</p> <p>Head of Industrial Group</p> <p>Off. National Energy Administ- ration P.O. Box 2649, Khartoum, Sudan</p> <p>Res. P.O. Box 52 Wad Medani Sudan</p>	<p>VENEZUELA</p> <p>Mr. Nelson R. DELLA ROCCA</p> <p>Process Engineering Supervisor</p> <p>Off. Petroquimica De Venezuela CarreteroMoron Coro. Moron Edo Carabobo, Venezuela</p> <p>Res. Carrera 12 N°57A-14 Barquisimeto Edo Lara Venezuela</p>

(3) 講師氏名リスト

(敬称略)

	氏名	会社名	社名	名	依頼先	電話番号
1	平川 芳春	日 揮	日 揮	日 揮	本人	月水金(542)8561火(588)7695 金(279)5441
2	灰谷 佳朗	三 菱	三 菱	三 菱	有機事業部長 皆川 進	(288)6689
3	大内 孝夫	三 井	三 井	三 井	人事部長 志水 修	(581)6111
4	武藤 伸次郎	"	"	"	"	"
5	江口 知己	"	"	"	"	"
6	芝尾 紘一	三 井	三 井	三 井	人事部長 若松 司	(580)3611
7	川 副 正 人	"	"	"	"	"
8	片岡 俊樹	"	"	"	"	"
9	高橋 克行	"	"	"	"	"
10	跡部 輝彦	旭 化 成	旭 化 成	旭 化 成	本人	(507)2100
11	大橋 俊英	三 菱	三 菱	三 菱	"	0598(46)1111
12	鈴木 竜之	"	"	"	"	(288)5562
13	斉藤 修	旭 硝 子	旭 硝 子	旭 硝 子	"	(218)5419
14	木口 敬三	住 友	住 友	住 友	工務部長 川崎 昭三	(278)7120

	氏名	会社名	依頼先	電話番号
15	上尾敬三	住友化学工業(株)	技術部長 石渡林太郎	(278)7120
16	登原明史	旭化成工業(株)	合成樹脂第二事業部技術部長 大坂一敏	044(271)2586
17	寺西 丕	日本合成ゴム(株)	取締役 市川龍夫	(541)4111
18	平井満夫	日本触媒化学工業(株)	本 人	(502)1651
19	奥村 統	ライオン(株)	”	(618)6081
20	高岩和雄	千代田化工建設(株)	”	(456)1211
21	土屋泰昭	東レ(株)	取締役 横内 滯	(245)5600
22	日下芳春	日本石油化学(株)	常務取締役 馬替 泰	(501)7311
23	吉村哲郎	宇部興産(株)	プラント事業部長 清水保夫	(585)6921

OBSERVATION & STUDY TOUR ITINERARY

February 28 to March 5 1983

NOTE : THIS SCHEDULE IS SUBJECT TO CHANGE

DATE & TIME	A C T I V I T Y	MODE OF TRANSPORTATION	ACCOMMODATION/REMARKS
Feb. 28 Mon	0700 Assembly at Shinjuku Sta., South Exit Tokyo -- Mishima 0900 - Lecture: TPA DMT Synthetic Fibers 1200 Mishima Plant, Toray Industries Inc. 1300 - Tour of Mishima Plant 1600	Shinkansen Lv. Tokyo 0743 Arr Mishima 0847	Dai-ichi Washington Hotel, Nagoya City
Mar. 1 Tue	1200 Lv. Hotel 1330 - Tour of Toyota Motor Co., Ltd. 1630 0830 Lv. Hotel -Nagoya Station	Chartered Bus Rail	Ditto To be escorted by Mr. Seto. Time to be confirmed
3 Thu	0930 - Tour of Chita Plant, Ishikawajima-Harima 1200 Heavy Industries Co., Movement to Yokkaichi Lv. Hotel Pick-up by Mr. Teranishi 0930 -- Tour 1200 Yokkaichi Plant, Japan Synthetic Rubber Co. 1359 Movement to Nara (1459)	Kintetsu Line (Private Line) Company bus (To be confirmed)	Time to be confirmed Hotel Sun Route Yokkaichi
4 Fri	0900 Lv. Hotel 0930 - Tour 1200 Tenri Plant, Sekisui Plastics Co. 1330 - Tour 1600 Nara Plant, Sekisui Chemicals Co. 1700 or Movement to Kyoto 1800	Kintetsu Line Arr 1630 -- 1700 Chartered Bus	Leave baggage in hotel cloak room Hotel Hanakomichi, Nara City
5 Sat	PH Movement back to Tokyo	Kintetsu Line Approx. 35 min. Shinkansen	Kyoto Dai-Ni Tower Hotel

NOTE : 1. Notify Sun Route Hotel from desk of 'Trip Out' and follow their instructions.
2. The tour area still maybe cold at this time of the year -- carrying of suitable warm clother -- sweater etc. - and also rain wear is advisable.

(5) 講師派遣先企業リスト

会社名	電話	千	住所
日 揮	279-5441	100	千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル
三井東圧化学	581-6111	100	千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル
三井石油化学	580-3611	1100	同 上
三菱油化	283-5511	100	千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル
三菱化成工業	283-6111	100	同 上
住友化学工業	278-7000	103	中央区日本橋2-7-9 住友日本橋ビル
旭化成工業	507-2730	100	千代田区有楽町1-1-2 日比谷三井ビル
日本石油化学	502-1561	100	千代田区内幸町1-3-1 幸ビル
東 レ	245-5600	103	中央区日本橋室町2-2
日本合成ゴム	541-4111	104	中央区築地2-11-24
旭 ダ ウ	507-2730	100	千代田区有楽町1-1-2 日比谷三井ビル
日本触媒化学工業	502-1651	100	千代田区内幸町1-2-2 大阪ビル1号館
千代田化工建設	456-1211	108	港区三田1-4-28 三田国際ビル
ライオン	613-6081	132	江戸川区平井3-13-12
旭硝子	218-5419	100	千代田区丸の内2-1-2 千代田ビル
宇部興産	585-6921	100	千代田区霞が関3-7-2

(6) 見学先リスト

見 学 先	依 頼 先
1 海水淡水化茅ヶ崎臨海研究所	(財)造水促進センター 〒167 港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル 理事長 外島健吉 総務課 中村俊治 Tel 583-9431
2 日本合成ゴム 四日市工場	〒104 中央区築地2-11-24 総合企画室 吉田主査 Tel 541-4121
3 プリヂストーン・タイヤ 東京工場	本 社 〒104 中央区京橋1-10-1 社 長 服部邦雄
4 東レ 三島工場	本 社 〒103 中央区日本橋室町2-2 取締役 横内 裕
5 トヨタ自動車工業 豊田工場	本 社 〒471 愛知県豊田市豊田町1 第三公報課長 佐々木 康夫 Tel 0565-28-2121
6 積水化成成品工業 天理工場	東京事務所 〒106 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル 取締役 長谷川 整 司

見 学 先	依 頼 先
7 積水化学 奈良工場	東京本社 〒 105 港区虎ノ門3-4-7 森ビル86 福 田 総務課長 Tel 434-9023
8 三井石油化学工業千葉工場	本 社 〒100 千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル 海外企画部 吉宗部長代理 Tel 580-3611
9 日 揮 横浜事業所	本 社 〒100 千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル 取締役 加 藤 房之助
10 石川島播磨重工 愛知工場	本 社 〒100 千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル 輸出統轄部中 瀬 戸 様

(7) カントリーレポート

COUNTRY REPORT

/ ALGERIA

I PRESENT SITUATION OF PETROCHINICAL INDUSTRIES

In Algeria, the petrochemical field is divided between the three following companies: (see appendix I)

SNIC (chimical Industry National Company): Synthetic detergents Paints, Lacquers and additives

ECPC (Plastics and Rubber National Company): This company is interested particularly by the transformation of the synthetic products Auch as PP, PVC, LDPE, HOPE etc.

SONATRACH (Hyvocarbous hamport and Commerciahzation National Company): Plastics (C' -PP-PVC-VCM-etc.)-Fertilisers- and others products such as urea, Hethanol, Caustic Soda etc.

I shall talk about the last mentionned company (SONATRACH) because I have not any data about snic and ENPC.

Than, the production plants of SONATRACH are situated at the east and west of the country.

In the west of the country there are two plants concentrated in ARZEW:

The first one produces : Methanol

Formaldehyd

Thermosetting resins	{	Moulding Powder Resins (Phend-
		formaldehyd)
		Monlding Powder Resins (Urea-
		formaldehyd)
		Liquide Resim (Urea-Melamin
		formaldehyd)

The second one produces : Amonia

Urea

Fertilisers

Nitrat acid

In the east of the country there are also two plants. The first one situated at SKIKDA produces:

Ethylene

VCM

PVC

LOPE

HOPE

Canstic Soda

Hydrochlovic acid

The second on situated at ANNABA produces:

Fertilisers

II PARTICULAR PROBLENS OF PETROCHIMICAL IND. IN THE SONATRACH

The petrochemical sector in SONATRACH has not any problem with the main raw material which is GAS because this is a natural resource but it faces problems with the others raw materials such such as Phenol, nelamin, cellulose etc. the 90% of the mecanical spare parts are inported.

The operators of maintenance and production departments are not adapted at the advanced technological process of petrochimical industries. The commericalization difficulties are very important: the imperfect knowlege of the local market consumption, the insufficiency of the hansport and distribution means, the unbalancing between the petrochemical development and the hausformation insdustry development (ENPC), are very big problems witch limit the performance plants.

III FUTURE PROSPECT OF PETROCHINICAL IND.

At present the government overrations are to reduce those necks beginning:

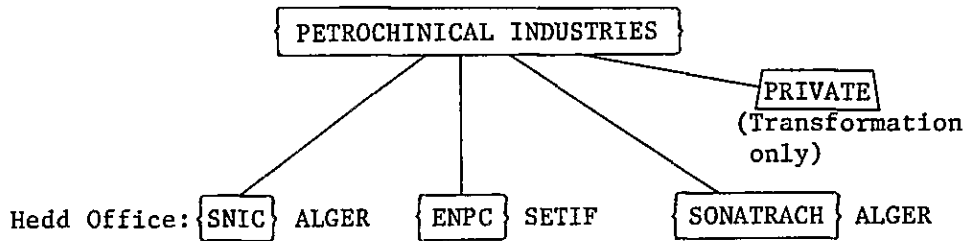
- a- to revise the big companies structure (for example sonatrach, the light company in the country is composed by 100,000 workers!)
- b- to renovate the existant plants and than to increase their rate
- c- to increase the capability of the operational personal this at a first time.

Than, it is necessary to develop the technical cooperation with developed countries; it seems the main way for to increase the know how (particularly in maintenance and production departments), at short term certainly!

It is also necessary to improve the distribution circuits of those particular products (PVC, Resins, various acid etc.) and to develop the upstream and the downstream of the petro, chin, ind. creating new products and additives plants, also new plastics transformation plants.

IV. ORGANIZATION OF THE PETROCHINICAL SECTOR IN SONATRACH

In 1983, the petro. chin. sector of SH. will become an independant company with her own commercial structure. This new company will be composed by the mentioned plants on the chapter I. At present, I work in the methanol plant /ARZEW since 1975. My present position is assistant manager. (see Appendix II) I think that the revision of the structure is an advantage for my sector. Becoming an independant company, this sector will adopt quick means and an aggressive political for to increase the rate of the all plants. It will be easy to decide quickly about problems.



- | | | |
|--|--|--|
| OETERCENTS

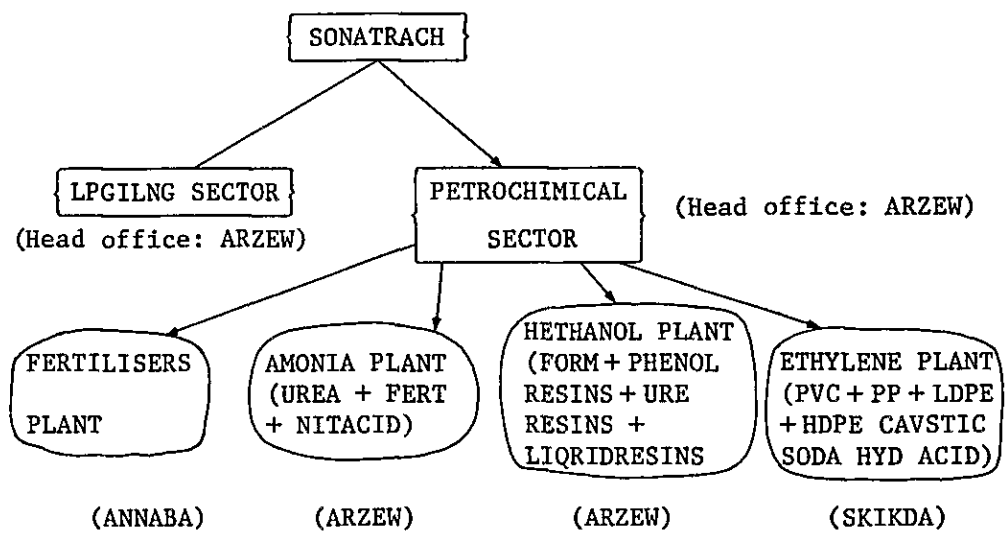
PAINTS

RESINS FOR PAINTS

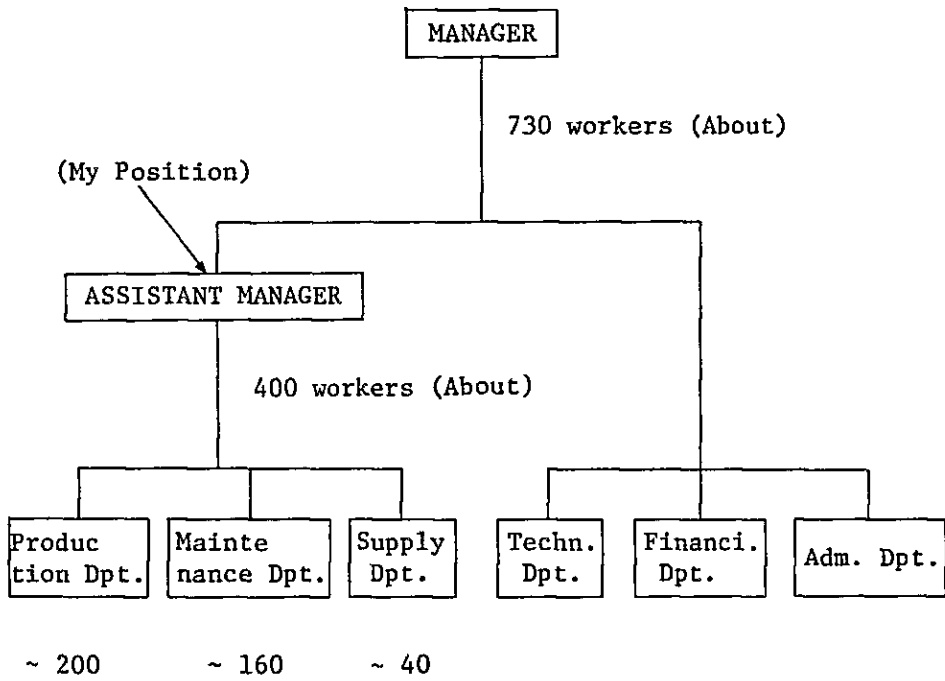
Additives

OTHERS
(insecricides
herbicides etc) | RUBBER

Transformation of
the all plastics
(prodvced and
imported):
Pilms-bags-tubes-
containers-
laminater etc. | AMONIA
UREA
FERTILISERS
HETHANOL
FORMALDEHYDE
THERMOSETTING RESINS
ETHYLENE
VCM-PVC-LDPE-HDPE
NITRAT ACID
CAUSTIC SODA
HYDROCHLORIC ACID
LPG
LNG |
|--|--|--|



ORGAN. SHART OF METHANOL PLANT



THE COUNTRY REPORT OF JORDAN

Eng. Sami M. Said

Jordan is situated off the south - eastern shores of the Mediterranean Sea between latitudes 29° and 33° north and longitudes 34° and 39° east, and extends eastwards into the Arabian Desert. It is bounded by Syria to the north, occupied palestine to the West, Saudi Arabia to the south and Iraq to the east. Jordan's outlet to the sea is a 40 Kilometer stretch of land on the Red Sea at Aqaba.

The total area of Jordan (East and West Banks) is 96,]88 sq. km. Of this area the East Bank is 88,800 sq. km. While the West Bank is 6,633 sq. km. The Dead Sea area is 755 sq. km.

Total population of the East Bank of Jordan is estimated at 2.4 million. It is characterized by a relatively high growth rate of 3.8% per annum and an increasing tendency to settle in towns. About 1.3 million inhabitants, or 50.4% of the total population of 2.4 million live in the three major towns of Amman (870,000) people, Zarka (285,000) and Irbid (145,000). The labor force of the East Bank of Jordan is estimated at 497,000 persons or 20.7% of total population of this figure 34,800 persons (or 7%) are engaged in agriculture, 45,700 persons (or 9.2%) in mining and Industry and 416,500 persons (or 83.8%) in services.

Mineral Resources :

The country's mineral wealth lies predominantly in its phosphate reserves which cover 60% of Jordanian territory and are estimated at 3,000 million tons. Quantities of Uranium and Vanadium are now known to be mixed with the phosphate reserves. The existance of about 55 million tons of good quality copper

are was announced in 1974. Other minerals include gypsum, managanese ore, abundant quantities of glass sand, tripoli, marble, granite, garnet and the clays and feldspar are required for ceramics manufacture. The Dead Sea probably has the biggest reserves of pottassium, sodium and bromine in the world. Prospective reserves of oilshale in Jordan are estimated to be as high as to billion tons - placing it amongst the world's leading oil shale reserves.

Due to the nature of its natural resources, the Kingdom enjoys comparative advantages in the field of mineral resources and their possible exploitation at comparatively reasonable costs.

Petroleum Refinery

The refining capacity of Jordan petroleum refinery 12500 tons per day and it's products as the following :-

- Liquid Gas 65,000 tons.
- Gasoline 32,000 tons.
- Aftor 264517 tons.
- Kerosine 166774 tons.
- Diesel oil 658279 tons.
- Fuel oil 597529 tons.
- Asfalt 138731 tons.
- Automotive motor oils.
- Engine oils for commercial road.
- Diesel engine oils.
- Gear lubricants.
- Hydrulic oils.
- Compressor oils.

To enlarge Jordan's existing refining capacity of about 4 million tons a year, with the begining of the 1990s, Jordan

petroleum refinery company is considering to establish a refinery with a capacity of about 9 million tons a year in Aqaba. The capacity of the first phase will be about 3 million tons a year.

The Plastics and Paints Industry

Although some companies are performing well, the activity through is much lower than must be. In 1982, throughput, totalled only about 90,000 tonnes of all materials.

Plant is on average operating for only half the available hours each week. We estimate that the utilisation of available capacity totals only about 60 percent. Processes operating included extrusion, blow - moulding injection moulding, vacuum forming compounding, weaving steam moulding of E.P.S, and polyurethane foam. The most successful elements are those providing footwear, and polyurethane foam products.

There is no production of plastics intermediates, but one company is supplying PV processors with compounded materials. The industry is very fragmented, with little opportunity for inter-company communications, and no dialogue as a whole with Government.

The plastic and paints industry is without doubt one of the most active industrial sub - sectors in Jordan. The 1982 imports of artificial resins and plastic materials amounted to 6000 mt. It follows that there is little need to encourage this Industry which is progressive and export - conscious. Nevertheless, there are causes for disquiet.

A brief observation of but some six companies shows that they are concerned with polyvinyl acetate, polystyrene, polyethylene, polyvinyl - chloride, polyurethane, and polypropylene. Is there a case for :

- The import of vinyl chloride monomer granules for conversion to polyvinyl chloride, and
- the import of styrene monomer, for conversion to polystyrene.
- Polyvinyl chloride and polystyrene are currently being used in Jordan by a number of factories and, whilst it has been difficult to ascertain the tonnages involved, the apparent rate of growth is such that by the time the "conversion" plants could be built - say, 2 years - the need would be adequate to support them.

The high cost of raw materials for the plastics and paint industry is unlikely to be reduced until, as and when, a petrochemical complex is established at Aqaba in Jordan; however and meanwhile, increased "Local conversion" would reduce the cost of imports.

The Fertilizer Industry : -

The Jordan Chemical Fertilizers Industry Company was established to process Jordan's phosphate reserves into fertilizers for export.

The production started in the middle of the 1982. It is expected to produce in a first stage of full production in 1985, 740,000 tons of di - ammonium phosphate and 105,000 tons of phoacid, per annum. Fuel oil and phosphate rock will be supplied by domestic production.

The Jordan chemical fertilizers industry Company has been investigating the possibility of exploitation as the deposits of radioactive minerals relate to the deposits of phosphate beds. According to estimates it my be possible to produce something like 80 - 100 metric tons of "Yellow Cake" (U₃O₈) per year based on a phosphate feed of 1,3 million tons ayear from

the moderate radio - active zones. Other deposits with radium are found with the hot spring deposits.

MINISTRY OF OIL

P.O. Box 22795 KUWAIT.

PETROCHEMICAL INDUSTRIES COMPANY (K.S.C)

Petrochemical Industries Company (PIC) was founded on 18th July, 1963 with the object of utilizing the country's natural resources by setting up various types of Petrochemical Industries in Kuwait. The Company is wholly owned by the State of Kuwait and is administered as a component of the Kuwait Petroleum Corporation.

PIC has passed through various phases of expansion and merger until it has become one of the largest companies in the world manufacturing chemical fertilizers.

FERTILIZER DIVISION

The Fertilizer Division is located at Shuaiba Industrial Area and includes :

<u>Plants</u>	<u>T. Annual Capacity</u>
Three Ammonia	660,000 MTs
Three Urea	792,000 MTs
One Ammonium Sulphate	165,000 MTs
One Sulphuric Acid	132,000 MTs

In 1979 the Company signed the manufacturing licence and engineering agreements of a fourth ammonia line to produce 1000 MTs per day by the second half of 1983, consequently the total production of our four ammonia plants will be about One Million metric tons per year.

SALT & CHLORINE DIVISION

This division is located at Shuwaikh and comprises :

<u>Plants</u>	<u>T. Annual Capacity</u>
Two Salt	18,600 MTs
One Chlorine & Caustic Soda	9,800 MTs 11,050 MTs
One Hydrochloric Acid	329,000 Gallons
One Sodium Hypochlorite (Chlorsal)	15,000 M ³

EXPORT

PIC products are exported to more than 50 countries all over the world. Shipping operations are organized to utilize the most modern methods. India, China, Ethiopia, Tanzania, Sudan, Somalia are countries among those who import our fertilizer products.

SAFETY

The Company gives special care and attention to the safety of employees and plant by carrying out special safety studies covering all company operations and several safety courses have been conducted to raise the safety consciousness of company employees. In addition, many employees have been given a special training on accident prevention and fire fighting.

MOHAMED JA'AFER AL-SHAWAF

SOCIALEST PEOPLE LIBYAN ARAB JAMAHERIEA
GENERAL COMPANY FOR CHEMICAL INDUSTRIES ABU-KAMMASH

COUNTRY REPORT

The Libyan economy at the age before 1970, despite apparent abundance cast by oil, constitutes a good example of the economy of under developed countries characterized by dependence on one source of income, the oil, with all the economic risks of dependence on one source which is a natural one, subject to depletion or change in value because of development, as we are living in the age characterized with rapid development and what is currently used may lose its value because of development.

On studying the development of the national economic structure from 1962-1969 the oil sector had a high percentage of contribution in national economy. As the oil revenues doubled 12 times during this period, i.e from 160,710 million dollars 48.7 million dinars in 1962 to 204,270 million dollars, 619 million dinars in 1969, while the revenues of industrial activities realized an increase from 10 million dinars to 19.3 million dinars during the said period. So the industrial sector's contribution in gross income dropped from 5.6% in 1962 to 1.7% in 1969 against an increase of contribution by the oil sector from 26.4% to 65.7% during the same period, this led to lessening the role played by industry.

In order to change this situation, it was imperative to adopt a long term strategy aimed at rectifying the structure of national economy by the increase of the industrial sector's contribution in the national income through proper exploitation of natural and material resources available in the country and facing the fundamental requirements of the people such as food, clothing and housing by realizing and housing by realizing

self-sufficiency in such commodities, through local industrialization, as a preliminary stage, then by entering the stage of basic heavy industries according to ultramodern scientific and technological means. So if we look through the last ten years 1970-1980 we will find the expenditures on the industry sector increased from 67,650 million dollars in 1970 to 730,950 million dollars in 1978 including with that the petrochemical industries based on petroleum and mineral sources available in the country which can provide welfare and prosperity to the Arab masses and consequently liberate the national economy from dependence and influence so we can summarize the petrochemical industries built up in the last ten years as follows:-

- 1- Big petroleum refinery company located at Zavia to produce the requirements of the country from fuel oil, kerosene, benzene and gasoline.
 - 2- Ammonia, urea and methanol plant with capacity 330,000 ton/year methanol at Brega.
 - 3- In the next two years we will have a big petrochemical complex at Raslanof to produce about 330,000 T/Y ethylene, 50,000 T/Y propylene, 60,000 T/Y butadiene with some other products based on ethylene and propylene such as polyethylene, polypropylene and ethylene glycol.
 - 4- Petrochemical complex at Abu-Kammash for a production of 60,000 MT/Y of polyvinyl chloride.
- Also there is a possibility of building up another polyvinyl chloride complex and ethylene from Raslanof. The project is under final investigation.
- * All the above development and the planning of the future of the industrialization sector is supervised and supported by following organizations :-

- 1- Industrial research center its function to carry out industrial studies and researches, perform geological studies and explore the mineral wealth in the country.
- 2- General national organization for industrialization: it is regard as the main structure for the execution of industrial projects.
- 3- Industrial real estate bank its function is to provide funds necessary for the industrial and real estate sectors.

The national industries are facing a number of impediments preventing the complete exploitation of their productive outputs, mainly because of minor local market, non-availability of raw material, lack of skilled manpower and competition of imported products.

The organization where I have been working is the general company for chemical industry (GCCCI) based on a chemical complex which is one of the biggest petrochemical projects in the middle east and africa, the extent of the complex is higher than 500,000,000 dollars, its location in abukamash, 144 km west of tripoli No. of personnel : 1500.

It is a complex composed the following parts :-

- 1- Brine winning, pumping, and purification 110m³/h.
- 2- Salt Plant:

Total Salt	120,000 MT/Y
Table Salt	40,000 MT/Y
- 3- Electrolysis plant:

Total Chlorine	47,740 MT/Y
Liq Chlorine	5,000 MT/Y
- 4- Caustic soda evaporation and filling 49,000 MT/Y
- 5- Sodium Hypochlorite (150 mg/L) 8,900 MT/Y
- 6- Hyonochloric acid (30 %) 8,000 MT/Y

- 7- VCM - Vinyl chlonide monomer 62,500 MT/Y
8- PVC. Suspension poly vinyl chlonide 60,000 MT/Y

Including the main auxiliaries such as : Sea water desaliation plant, waste water treatment, steam generation, nitrogen plant, cooling water station, and etc.? In the final write the adress. To the back side of the paper the The adress of the company : POST POX { 071/100 } ZUARA
{ 411/100 }

TELEX NO. 30437

TEL NO. 601704 AND 601711

1111 7

The main probelm facing our company is to sale our product such as PVC & Naoh due to limited local market consumer. And the other problem is the shortage of skilled manpower.

COUNTRY REPORT

MOROCCO

I. Present situation of petrochemical Industrie

So far Morocco don't produce crude oil, so at present we havn't many petrochemical firms. The only firm scisting now is the "Societe Nationale d'Electrolyse et de Petrochimie" - SNEP - (National Company of Electrolysis and Petrochemistry).

It is implanted near the port of Mohammedia and the Crude Oil refinery "SAMIR". The port of Mohammedia is specialized in importing crude oil.

SNEP was designed in order on the one hand to consume salt from a new salt-mine near Mohammedia and on the other to save curnency from buying PVC from abroad, for at that time the international price of PVC was too high.

SNEP begin working in 1978 after 3 years of construction by Krebs - a french ingeniering -

Besides SNEP thereisa new big plant in construction for Lubricants (100,000 tons per year). This plant is connected with SAMIR.

II. Presentation of the SNEP Compayny

SNEP is a national compayny under the government control It includes 3 main plants.

1- Electrolysis

Process = Kvebs

16 Mercury Cells - Permeles Anodes

Current density = 10 kA/m²

Production = Chlorine : 25,000 tons per year
(capability)

Production = Soda : 28,000 tons

Hypochlorite according to request

the salt brought from the mine feeds 2 saturators. Then brine is treated with carbonates, decanted and filtered before feeding cells.

All CP2 produced is compressed at 7 kg/cm² into dry piston-ning compressors Burkhardt 10,000 tons are liquified and 15,000 tons sent to VCM plant.

10,000 tons of soda are concentrated into solid soda in bertams unit. There is also a mercury depollution unit.

2- VCM

Process = Stanffer Chemical USA

Production = 26,000 tons VCM per year
(capability)

2-1- Direct - Chlorination and refinery DCE

CP2 coming from Electrolysis and C₂H₄ from storage which is unplanned out the Port (tank of storage = 5000 m³, pumps, compressors and lique factor) enter in reaction and we obtain crude DCE which is refined in columns.

2-2- Cracking DCE and refining VCM

Dry DCE is cracked into furnace and we obtain VCM, HCl and residual DCE.

VCM is refined columns and sent to storages.

HCl is sent to Oxy-chlorination Section.

2-3- Oxychlorination

HCl, C₂H₄, and air from centrifugal compressor enter in reaction into 3 serial set reactors which are filled up with a special catalysis we obtain DCE which goes to be refined.

3- PVC

Process = Stcneffer Chemical USA
Production = 20,000 tons/year Suspension
(capability) 5,000 tons/year Emulsion
5 Reactors PCV Suspension
2 " " Emulsion

VCM is put into reactor with catalysist and others com-
ponents. Reaction is controled by mean steam or cold water
into the doble envelope, then product goes to centrifregation
→ rotating dryer → sifting → storage.

From Emulsion reactor product go to atomiser → dyer → sifting
→ gruider if needed.

There are also two others small units:

- 1- PCV compound yrunilar
- 2- PCV compound dry blend (alimentary)

III. Particular Problems witch we are facing

- 1- Corrosion of flcuk and cover of Electrolysis cells
- 2- Refining of the brine
- 3- Chlorine Compenors
- 4- Corrosion in the tubs of the DCE craking furness
- 5- Corrosion in some seclumyers in the VCM plant
- 6- Corrosien of the Nickel lines in the Docyclilorination section
- 7- Commercial problems :
 - High denand of soda and low demand of PVC
 - High cost price of products for a small production capacity and High international price of Ethylen
 - High cost of Spare parts imported from Europe.

IV. Future prospect of petrochemical industries

At Present we urteud in the first step to developpe PVC tians formation such as PCV tub for diceiring. One unit of this type will start in few months.

Besides we untend to do actarsion of the Electrolysis unit, for soda is more requested.

Later we project the setansion of VCM and PCV plants.

Requeding to the local consumption of polyethylen (about 25,000 tons/year) We are prospecting polyethylen plant of about 60,000 + 1 year Then also a plant of Naphta Steam-craking is projected to have erhylen avclilable for PVC and Polyethylen plants.

V. Snep Organization

Under the General Manaher we have :

- 1- Production Manager
- 2- Maintenance Manager
- 3- Administration Manager
- 4- Financial Manager
- 5- Selling Manager

Jam the maintenance manager J supervise 3 main depeurements:

- 1- Mecanical Maintenance
- 2- Electrical Maintenance
- 3- Electronic and control process

The production manager and J are responsible of the impro- vement of the installation. We work together for the secteasion and for the new projects.

J stauted at SNEP in 1975 of the beyining of the construc- tion. Before J had been working in the National company of

Electricite cluring 5 years.

BENNANI Mohamed.

4th Feb. 1983.

STATEOFQATAR. QAPCO.
QATAR PETROCHEMICAL COMPENY LIMITED.

INTRODUCTION AND PROCEDURES:

PREPARED BY:

ENGINEER. SALEH. A. HIJI.

ASSISTANT, MAINTENANCE, MANAGER.

IN THE NAME OF GOD

OUTLINE OF THE COMPANY.

QAPCO WAS FOUNDED IN 1974.

Shareholders	Qatar General Corporation (QGPC) 84 %
Eqyity	QRS. 360 million.
Total Investment	QRS. 2600 million.
Pl and Location	UMM-SAID.
Feed stock	Ethane provided by NGL (Natural gas liquid plant).
Products	Ethylene 280,000 T/year Low density polyethylene 140,000 T/year. Solid sulphur 46,000 T/year.
Employers	650 employees.
Site area	100 hectare.
Main contractors	Ethylene plant technip (france) Low density polyethylene coppee rust (Belgium). Steam and power plant, turbotecnica (Italy) General offsite facilities, Japan Gazoline Corp (Japan)

THE STEAM CRACKING PLANT.

The steam cracking plant is fed with a gas called "ethane

rich gas" which is composed of approximately 60% ethane 20% methane and 20% acid gases.

The gas comes from the plants of OGPC.

NGL plants gather all associated gas both from onshore and well and after processing they deliver to QGPC upto 600,000 tones a year of ethane rich gases needed for producing 280,000 T/year of high purity ethylene (99-95%) steam cracking involved the pyrolysis of hydrocarbons in the presence of steam pressure and with the absence of catalysts.

The molecules of hydrocarbons are there by "cracked" to give smaller molecules which are more reactive and can easily be used for chemical reactions. The steam cracking plant comprises mainly of:

The gas treatment section.

The cracking section.

The separation section.

The gas treatment section.

The cracking concerns mainly ethane. Before sending it to the ethane rich gas must be treated for the following to obtain a gas with ethane high content (95%)

1. Removal of acid gases.
2. Removal of methane.

The removal of acid gases (H_2S and CO_2) is made through a washing unit using Diethanolamine (D.E.A.) for absorption.

The "sweet gas" is then sent to the first Demethanizer for the removal of methane. Methane goes to the fuel gas system, the ethane high content gas is either directed to buffer storage (2 spheres each 4000 m^2) or forward directly to the cracking furnaces the acid gases recovered from the washing unit are sent to the sulphur recovery unit. Inside the unit H_2S is

transformed to sulphur by using the Claus Catalytic process. Sulphur leaves the unit as liquid and a prilling unit services the liquid sulphur and delivers solid sulphur plates which are sent as bulk to a 8000 T storage warehouse. The warehouse is equipped with an automatic reclaimer device linked to the loader placed on the wharf sulphur, will be loaded directly as bulk into carrier ships berthed to the quay. Expected solid sulphur production is 45,000 T per year.

The craking section.

7 furnaces have been erected for receiving the ethane high contain gas. One is kept as spare. 6 allow the full production of ethylene. Before entering the furnace, steam is added to the gas in order to facilitate the reaction and reduce the deposition of coke inside the cracking tubes. Tubes are heated up to 850 C. and gas plus steam progress very quickly under less than halfsecond for the total transis. From the economical point of view, the gas is preheated by the exhaust smokes of the the furnace and the very high temperature cracked gases are cooled by producing high pressure steam.

The separation section.

3 sub section can be observed

1. The hot sub- section
2. The compression sub- section.
3. The cold separation sub- section.

1. The hot sub- section.

After passing through a first exchange used for steam production, cracked are cooled very quickly in a quench tower. Temperature is brought down to 35 C in a very short time. Fast cooling is needed to avoid the reversibility of the cracking

operation. Before being directed to the compression sub-section, water and heavy pyrolysis oils are removed from the cracked gases.

2. The compression sub-section.

The higher pressure needed at the inlet of the cold separation is provided by a five stages centrifugal compressure. Pressure is built up to 36 bars. In between the fourth and fifth compressor. Cracked gases go through a washing unit for the removal of acid gases and heavy pyrolysis oil. When leaving the compressor, gases cross drying units for complete removal of water before being cooled down at vary low temperature.

3. The cold separation sub section.

Cracking of ethane is a vary complex reaction which in fact gives hidrogene and a vary large rengo of hydro carbon products but of course with a priority to ethiline. Recovery of various compounds is made in serveral steps by fore frictionated distelation. To obtain the foregoing step, cracked gases must be cooled down vary deeply, down to minus 95 C. This can done by using successively two defferent fluids, first liquid is propylene, second liquid is ethylene. Progressively recovered are:

Hydrogenamo methane, recyceled as fuel gas. However part of hydrogen will be purified and used for hydro-genating C₂ and C₃ hydrocarbns.

C₂ cut comprising ethane, ethylene and acetylene.

Acetylene is converted into ethylene by hydrogenation, the final C₂ splitter tower separates ethylene from ethane. Ethane is reciceled to the cracking furnaces. Cery high purity ethylene (minimum 99, 95% 0 is to sent either to the storage (30,000 m²

-104 C atm pressure) or to polyethylene plant.

Ethylene storage is connected to the loading arms located on the wharf.

Specialized ship tankers berthing to the wharf can be directly loaded or unloaded from or the storage tank.

-C₃ cut comprising mainly propane and propylene. A hydrogenation reactor is also used for improving propylene recovery. Propane is separated from propylene and recycled. Propylene is sent to storage (one 1000 m² sphere) and will be used partly to fill up the propylene cooling system and partly to feed the polyethylene plant as a transfer agent.

Expected propylene production is 5000 T/Year.

C₄ cut is sent back to the fuel gas system. The remaining heavier hydrocarbons are burnt in an incinerator.

THE POLYETHYLENE PLANT.

The polyethylene plant has been designed for production of T/Year of density polyethylene in a single line. It is the second plant in the world having such a unit capacity after COPENOR in France. A sister company owned by CDF chemy and QGPC,

The plant utilize CDF chemies process, the plant comprises of:

- a) The compression section.
- b) The polymerization section.
- c) The homogenization and bagging section.

The compression section.

Ethylene, with minimum purity of 99, 95% received from the

ethylene plant is first compressed up to second compressure will then boost the pressure up to 1000 to 2000 bars. It must be noted that this compress or is driven by an elictrical motor of 17,000 K/W. High pressure ethylene is sent to the polymerization section.

The polymerization section.

High pressure ethylene including or excludng transfer agent, is introduced inside a stered autoclave reactor by the introduction of catalyst agent, the polymareazation reaction is ininitiated and controled by polymarezation reaction. It must be understood that ethylene molecules join together strongly linked to form a vary long molecullee chaino of polyethylene. Conversion from ethylene to polyethylene is partial, conversion factor can reach valiuies up to 20% quolity of the polyethylne is stricktly dependant on pressure and temperature inside the reactor Accurate control of this two parametrics allow to produce the various qualities needed inside the reactor, ethylene and polye thylene are fully mixed for separating ethylene from polyethylene, the mixture is sent to a separetor through the automatic reactor diffusion valve. Pressure is dropped down to 250 bars, so most ethylene is recovered and sent back after cooling to the secondary comperessure section from botom of the separator, the polyethylene is forwarded to midium and low proes- sure hoppers were the ethylene contiues to be removed.

The last hopper is fitted upon an extruder. The extuder contributes to the homogenezation of the various additives. If needed such as: slip agent anti-oxidant, anti- U.V or anti-blocking agent etc.....

And the end of the extruder, an under water pelletizing devise produces pellets. And removal of water, pellets are

sent to the homogenization through automatic weighing unit, controlling the output of the unit.

The Homogenization and bagging section.

To insure the steadfastness of the qualities, polyethylene is homogenized by batches silos by this way a complete uniformity of the properties can be obtained after homogenization, the product is sent either to the storage silos 250 T. each or to the bagging section. Storage silos have been designed to allow direct bulk loading in tracks.

Bagging is made through to fully automatic line valve bags are used to receive 25 kg of polyethylene each. This kind of bag with square shape allow the building up of nice pallets easy to handle and to store. Palleting is also fully automatic and the pallets are wrapped by shrinkable film. thus handling is easy today to do, with no risk to pull down the pallets. Pallets are then stored in a warehouse of 24000 m.

A large part of the polyethylene will be exported by ship. It could be loaded either directly in pallets or inside containers. A mobile crane specially for containers handling is on site. A gantry crane also equipped with container in side the ship. Some polyethylene will be delivered by tracks for all regional sales,

MAIN USES OF LDPE.

The end uses of low density polyethylene cover many fields:

The following are the main ones:

1) FILMS:

Heavy duty bags (plastic material fertilizer etc.....)

Multy- purpose bags (super Markets)

Shrinkable film (for pallets)

- Agricultural film (green house, mulching film)
Packaging film.
- 2) Moulding.
Cans, Bottles, Yoys.
 - 3) Moulding
Household ustensils and appliances, Loys
 - 4) Underground piping for water.
Hoses for Irrigation.
 - 5) Cables.
Insulation for electric cables.
Insulation for TV antenna cable.
 - 6) Coating.
On paper, on aluminium.
 - 7) Roto Moulding.
By using ldpe power
Large size of hollow pieces.

To keep the polye hylne at the high level required, the laboratories carry out contiuous checking on the polymer by using automatic samples.

This quality control makes it possible for the production division to obtain information establishing conformity of the resin to the required standard and making it possible. If needed to adjust the polymerization condition. After homogeniazation the laboratory carries out a second quality control chck to attribute the final lobel of quality. Thus only product of first choice is classified. Any defect will conduct of the rejection of the batch.

Low density polyethylene will be marked by Cdf Chimie, which will bring its support for technical assistance to the final users, in helping them to have best profit when proces-
sing the products.

AN INTRODUCTION TO QAFCO.

Our purpose is to give a brief information about Qatar fertilizer company the intention behind the project, the operations going on, the products and the marketing.

QAFCO was established in 1969 following the advise and decision of H. H. Sheik Khalifa bin Hamad Al Thani, the Emir of Qatar.

The company forms and important part of the industrial development based on the natural resources of Qatar. Construction of the first plant was done in cooperation between QAFCO, GIBB-EWBANK, U. K., DAVY POWER-GAS Ltd, U. K., and HAMBRO BANK Ltd, U. K.

The company forms an important part of the industrial development based on the natural resources of Qatar. Construction of the first plant was done in cooperation between QAFCO, GIBB-EWBANK, U. K., DAVY POWER-GAS Ltd, U. K., and HAMBRO BANK Ltd, U.K.

The second plant was constructed in cooperation between QAFCO, NORSK HYDR a,s, NORWAY, DAVY POWERGAS LIMITED, CONSTAIN PROCESS ENGINEERING AND CONSTRUCTION Ltd, U. K., CHIYODA CHEMICAL ENGINEERING AND CONSTRUCTION C. O. Ltd HAMBROS BANK.

The State has made a major contribution to the project and its active interest and cooperation is vital to the company. The succesful development of the companies operation depends fondanentaly on the diligent and dedicated ser vice of our employees developing skills and relations at all levels and maintain the best relationship with the society in general is amongst the companies prime objectives.

THE PROCESS.

Natural gas from the oil fields in Dukhan is the raw materials for production. Small amount of sulphur compounds mainly H_2S in the feed gas are removed in sulphur removal plant, the gas is then passed to the reforming section, where gas is steam and reacts at high temperature and the process of catalyst to form basically carbon monoxide (CO and hydrogen.). The nitrogen needed for the ammonia reaction is introduced through the air.

The reformed gas passes through various conversion and purification stage in the CO shift, CO contained in the gas, is converted into hydrogen and CO_2 , the CO_2 is removed in the CO_2 removal and used as raw materials for urea.

After another conversion stage the methanation where traces of CO and CO_2 are removed, the gas is compressed and let to the ammonia synthesis section where it is converted to ammonia at high temperature and pressure (approximately 800 F, and 3100 psi)

Liquid ammonia and CO_2 are the two components used in the urea production. These components are introduced in the urea autoclave at high pressure to form urea.

The liquid leaving the autoclave goes to the decomposition section where excess ammonia is recovered and returned to the synthesis.

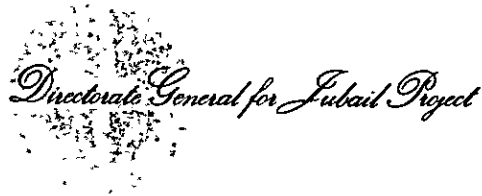
After filtration, a crystallizing and centrifuging, the urea crystals are melted and prilled in a prilling tower to form a free flowing final products. From the base of the prilling tower this products are conveyed to the bulk storage.

THE FINAL PRODUCTS.

Amonia is shipped from QAFCO in a liquidsa state colled down to 34C in special "liquified gas tankers." Amonia is used as a raw material for the production of various grades of chemicals. The main consumer is the fertilizer industry. Liquid amonia can also be used directly as a nutrient. The major part of the world's ammonia raw production is based on petrochemical raw materials as oil, naphta or natural gas.

FERTILIZER GRSDE UREA.

Urea is a fertilizer product of increasing importance. The product has a netrogen vontent of 46.3%, which is more than any other ferti izer product. This means a saving in transportation costs as fewer bags are needed for the same amount of nitrogen, prilled ureahas good chiping qualities. It is free flowing and can easily be spread by hand or by mach-anical means and it may also be used as spray solution alone or in combination with ether nutrients.



1 / 13



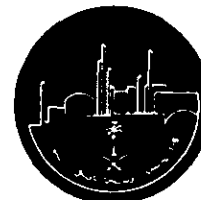
INDUSTRIAL DEVELOPMENT
KINGDOM OF SAUDI ARABIA

I INTRODUCTION

The Kingdom of Saudi Arabia's overall plans and objectives for national development include economic, social, and physical programs. An essential goal of these plans is the expansion and development of the industrial sector and the creation of more investment opportunities in an increasingly diversified economy. This industrial development will naturally be based on the abundant oil and gas resources to convert them into high value manufactured and processed products.

The Government's industrialization strategy aim at allocating these basic industries throughout the Kingdom. Jubail on the Arabian Gulf and Yanbu on the Red Sea were chosen for this industrial program.

The Jubail Industrial City is a major element in Saudi Arabia's plan for industrialization. Jubail was chosen as the east coast location for a large oil refining, petrochemical, and metallurgical complex because of its proximity to vast petroleum and natural gas resources, its proximity to the population centers of Dammam, Dhahran, and Al-Khobar, and a coastal location with deep navigable waters. The Jubail Industrial City occupies a site of approximately 80 km².



The major elements of the Jubail Industrial City are:

1. Primary Industries Area
2. Secondary Industries Area
3. Support Industries Area
4. Industrial and Commercial Ports
5. New Residential Community
6. Infrastructure and Construction Support Facilities

The primary industries are the economic heart of the Jubail development with its hydrocarbon based and heavy minerals installations. A total of sixteen primary industries are planned. These include two oil refineries, one lubricating oil refinery, a bulk petroleum storage facility, four petrochemical plants, two methanol and two fertilizer facilities, polyisoprene and petroprotein plants, an aluminium smelter, and a steel mill.

The primary industry will provide refined oil products, metals, agricultural and other products. A listing of these primary industries and their projected production follows:

PETROMIN SHELL REFINERY COMPANY

Naphtha
Low Sulphur Gas Oil
Auto Diesel
Fuel Oil
Long Residue



Dual Purpose Kerosene

Benzene

Benzene - Toluene

Liquified Petroleum Gas

Marine Diesel

JUBAIL LUB OIL REFINERY

Lube Oil Stocks - SNO 100/150
SNO 300/500
SNO 800/160 BS

Slack Wax

Fuel Oil

Asphalt

SAUDI PETROCHEMICAL COMPANY

Caustic Soda

Styrene

Ethylene Dichloride

Crude Industrial Ethanol

Ethylene Gas

Benzene/Toluene

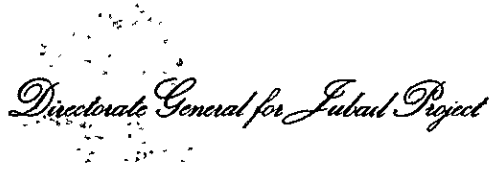
ARABIAN PETROCHEMICAL COMPANY

Ethylene

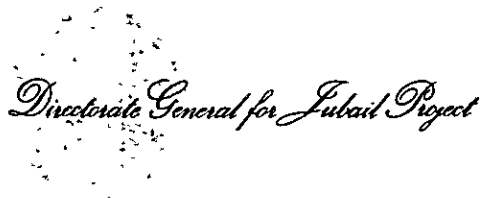
M.E. Glycol

D.E. Glycol

T.E. Glycol



Low Density Polyethylene
Hi Density Polyethylene
AL-JUBAIL PETROCHEMICAL COMPANY
Low Density Polyethylene
EASTERN PETROCHEMICAL COMPANY
Ethylene Glycol
Di Ethylene Glycol
Tri Ethylene Glycol
Low Density Polyethylene
NATIONAL METHANOL COMPANY
Methanol
Vinyl Acetate
Acetic Acid
Ethylene Acid
Ethylene Glycol
SAUDI METHANOL COMPANY
Methanol
AL-JUBAIL FERTILIZER COMPANY
Urea
SAUDI IRON AND STEEL COMPANY
Sponge Iron
Steel Billets
Rods and Bars
Wire Coils



Scheduled start of production for these industries ranges between early 1983 to 1986. The other primary industries are planned for the near future.

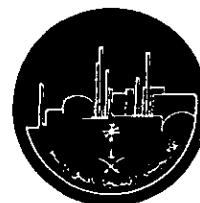
II ORGANIZATION INVOLVED IN INDUSTRIALIZATION PLAN

The task of implementing the plan for Jubail Industrial City is entrusted to three Government agencies:

- The oil and lube oil refineries and the bulk storage facilities are the responsibility of The General Organization for Petroleum and Minerals (Petromin). It has also the responsibility of gathering, treating and distributing associated gas.

- The Saudi Basic Industries Corporation (SABIC) is entrusted with the task of implementing, operating and marketing the products of the hydrocarbon and mineral-based industries listed above.

- The third government agency involved in the industrialization plan is the Royal Commission for Jubail and Yanbu. Appointed by royal decree, the Royal Commission was given the responsibility for planning, designing and building the physical infrastructure and the overall management of Jubail and Yanbu industrial cities.



III FUTURE PROSPECT OF PETROCHEMICAL INDUSTRIES IN JUBAIL INDUSTRIAL CITY

As the primary industries become operational, a variety of refined oil, petrochemical, metal and agricultural products will be available for use as feedstocks and materials for downstream industries. Various intermediate industries will emerge as a natural growth of the primary industry development.

These secondary industries will consist of manufacturing, blending and fabricating plants for petrochemicals, plastics, steel and other miscellaneous products.

Petrochemical Intermediate Industries

The petrochemical intermediate industries will form the link between the primary petrochemicals and final product sectors of the Saudi Arabian economy, with a projected total production volume of approximately 1,860,000 tpy.

The viability of these plans is related to the market competition that can be projected in the export sector, since most of the Middle Eastern petroleum producing countries are embarking on petrochemical industry development programs.



The earliest petrochemicals development is projected to include the following products:

- PVC
- Formaldehyde/Urea
- Formaldehyde Resins
- Polystyrene
- SBR (Styrene Butadiene Rubber)
- Carbon Black
- Melamine
- Terephthalic Acid-Polyester
- Nylon
- Propylene and Propylene Derivatives

These materials are of major importance in the construction and home products sector, and will present significant opportunities for import substitution.

Plastic Intermediate Industries

The plastic products industry is expected to develop utilizing the output of the petrochemical intermediate industries and will fill a maximum annual demand of 500,000 tpy in the home market and 300,000 tpy in exports. These production levels for 1995 are expected to develop in the following major markets:



Construction: Industrial, Commercial, Residential
Education
Medical Care
Food and Beverage Packaging
Housewares
Furniture
Agriculture and Horticulture
Leisure and Sports

These markets may be covered by manufacturing units that could be located at Jubail.

Paints and adhesives polymer demand is projected for construction, household products, and other sectors. These products can be essential for steel coatings, sealing, pipe joining, product laminating and as solvents in paints. A total demand of 6,000 tpy for paint resins and 3,000 tpy of adhesives is projected.

Other industries that could locate at Jubail to take advantage of feedstocks, energy, transportation and other infrastructure include:

a - Synthetic Detergents

Linear alkyl sulfonates, contributing up to 70 percent of the active ingredients in UK and US detergents could be synthesized from available petroleum products, hydrogen, sulfur and caustic soda.



b - Synthetic Fibers

Synthetic fibers for domestic use and export should include polyester, acrylic and nylon for use in wearing apparel, home furnishings, and industrial sectors.

c - Synthetic Rubber and Tires

Synthetic rubber, mainly SBR - styrene and butadiene rubber, could be made if a tire industry serving the Saudi and other Mid-East markets could be joint ventured. A demand of 4 million tires in Saudi Arabia is anticipated by 1995. The minimum size tire factory is about 1 1/2 million units/yr, so that considering the demand, the feasibility appears favorable at some time in the future. For an earlier start, a multi-national joint-venture may be required to assure minimum economic size of an SBR plant, which would be 40,000 tpy.

In general the selection of potential secondary industries for Jubail is based on market analyses and projections of demand for intermediate products and consumer goods, as well as the projected availability and character of feedstock from the primary industries and other sources. Their selection is also based on the opportunities for regional and world marketing.



The Royal Commission have adopted the following criteria for determining the suitability of potential secondary industries for Jubail:

- Feedstock relationship with the primary industries
- Use of other resources of the Kingdom
- Import substitution
- Increased participation by Saudi private sector in the industrial development of the Kingdom
- Development of Saudi management, technical and industrial manpower
- Development of export opportunities for Saudi Arabia - produced petroleum derivative products, metals and other products

IV PARTICULAR PROBLEMS TO BE FACED

As the implementation of the first group of basic industries got underway, the Royal Commission was engaged in preparing plans, designs and development schedules for the secondary industries zone.



To do this, the Royal Commission had to identify potential candidate industries which will form the basis of the layout and design of the secondary industries park. The process of identification was and still is a major problem facing the management of Jubail Industrial City. The process can be summarized as follows:

1. Identify industries that meet the criteria of the Royal Commission for downstream use of primary products, production of intermediate products, import substitution and resource use.
2. Identify the output, land requirements, feedstock materials relationships, transportation, utilities, employment and other needs of the candidate industries that directly influence physical layout and engineering.
3. Identify constraints and opportunities that may evolve for further development.
4. Provide guidelines for identifying the types of industries that should be attracted and identifying the benefits that would be available to them.

As a result of the above, a number of candidate industries was identified and categorized into groups. The land area requirements, utilities requirements and operating characteristics of each individual plant were obtained from published data,



from information supplied by process licensors, equipment manufacturers or individuals with personal experience in the design of particular industries. Various assumptions were used in the making of these estimates but enough flexibility exist in the design of the industrial park to cope with these unknown factors.

V THE ROLE OF THE ECONOMIC DEVELOPMENT DEPARTMENT

As stated above, one of the Government's main objectives is the increase and encouragement of Saudi private sector participation in the industrial development of the Kingdom.

The developments in Jubail Industrial City in general and the secondary industries in particular will meet this objective by creating more investment opportunities for the private sector. The Royal Commission, which is responsible for the overall management and development of Jubail Industrial City has created the Economic Development Department (EDD) to be the liaison between the private sector and the Jubail project.

The role and responsibilities of the EDD is to promote, plan and coordinate industrial and commercial opportunities and activities on the one hand. Guide, attract and evaluate private sector participation in these activities on the other.



As a Director for the Economic Development Department, I am responsible for the economic development of Jubail Industrial City through supervision of activities of groups performing the function of industrial, commercial and residential development. Also, I am responsible for liaison with other departments in the Royal Commission to ensure the economic development objectives are met.

My primary duties include:

- Direct and coordinate administration of the economic development of the city in accordance with policies determined by the Royal Commission
- Plan for future development of urban and non-urban areas by conducting research which defines appropriate industrial and commercial activities
- Prepare and release reports, studies and publications. Promote the advantages of Jubail which will attract population and appropriate secondary and support industries
- Recommend leasing and sale pricing policies which are consistent with the intended growth of the industrial city
- Lease or sell real estate, buildings, compounds or other facilities

H. A. Al-Hamdan
Director, Economic Development Department

PETROCHEMICAL INDUSTRY IN SUDAN

As a developing country, SUDAN industrial activities are limited to agroindustrial activities. Vegetable arts, food industry and textile dominate the industrial sector. This is due mainly to the fact that the raw materials of these industries are available. Also the capital and technical knowhow needed by this industry is limited other industries such who petrochemical are not known there due to the nonavailability of then new materials. Again the type of this industry requires large spending and high technical knowhow. Although SUDAN has a refinery which process crude oil and no use is being made of the byproducts of this refinery due to the lack of foreign currency in the country.

UREA PLANT :-

But in spite of that fact, recently a plant to process naphtha is being set up near Khartoum, the capital of SUDAN. As it is known SUDAN depends mainly on agriculture and hence fertilizer is the most necessary item needed to be imported to raise the richness of the land. These agricultural products are being grown mainly in the central region near Khartoum. This is the reason why the Urea Plant is being located near Khartoum. Again its position is at the terminal of the Pipeline which runs from Port Sudan Refinery up to Khartoum to transport the with products - gasoil and weight fuel - hence they can make use of the pipeline to transfer naphtha from the refinery to the plant.

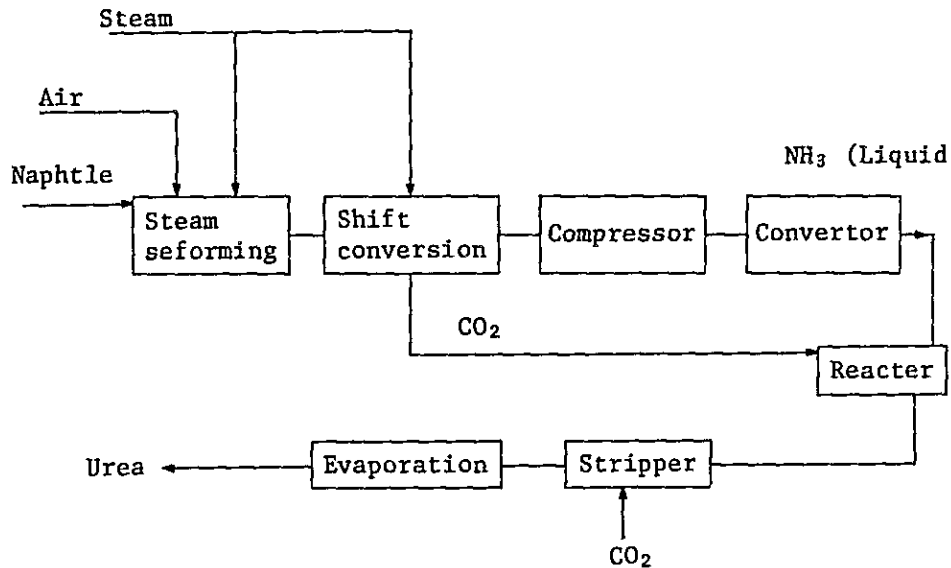
Plant process and Capacity:-

The plant is being designed to produce 500 ton of fertilizer per day. Steam reforming of naphtha is to be used as the

process for production of Ammonia and then ammonia to react with Carbon dioxide to give urea. This is known as the Imperial chemical Industries. A diagram illustrating the general process is given below.

Present situation:-

As it is already known now, oil has been discovered in SUDAN. In a couple of year SUDAN will start exporting oil through a pipeline which runs from the oil fields in the south up to the Port at the Red Sea. A total sum of 650,000,000 US\$ has been aloted to fenance this project the pipeline will be of 100 lbb/day capacity. Also a project to install a new Refinery in the middle negion near Kosti town is under investi- gation. This insure a bright futune for petrochemical industry in the country. Since we all know that oil is the backbone of this industry adding to this Natural gas is found on the Red Sea.



Summary of Urea Manufactory

Minimum Production of Natural Gas at the Red Sea

<u>Position</u>	<u>N. G. Ft³</u>	<u>Light Crude</u>
Sawakin	6,900,000	\$ 1158 lbb/day
Bashien	9,800,000	-

Port SUDAN Refinery output*

LPG	5,100 Ton/yen	
Benzine	12,300	"
Kerosene	32,741	"
Naphtha	32,741	"
Gasoil	319,314	"
Diesel	32,000	"
Furnce oil	185,000	"
Naphtha extra	10,000	"
Waste + Refinery usage	303,800	"

* The refinery was built 1965 and already facing a lot of problem since most of it should be technical depreciated by now. Also its design is according to the Urebean style.

Existing Problems:-

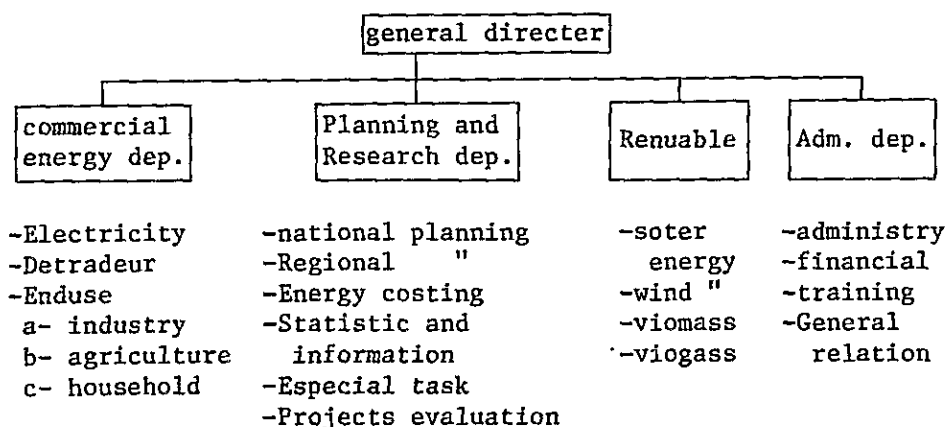
As it has been mentioned above petrochemical industry requires huge amount of money and SUDEN is still unable to supply such funds to enter this field. The petrochemical plant being installed now is still facing this problem and production has been delayed almost for more than two years. This delay always results in increase in production since equipment and labor are just being idle. Again no funds are available to train the Local Engineers and workers. Again this

always results in bad performance later when production will be started.

My Organization:-

Before joining the National Energy Administration I had been at the Ministry of Industry, Industrial Control Department. I joined the National Energy Administration one year ago. N. E. A. is a new organization within the Ministry of Energy. The department is to administer and plan for all energy issues in Sudan. Also to follow Energy Conservation and promote the energy efficiency through energy conservation programmes. Also one of the major fields the department is responsible for is the industrial sector energy. The Administration is divided into four departments as follows

- 1- Planning and Research dep.
- 2- Commercial Energy dep.
- 3- Renewable and New Source of Energy dep.
(solar, nuclear, biomass etc)
- 4- Administration dep.



My position is the head of this unit

ISMAIL ELSHAFEI
National Energy Administration
SUDAN

COUNTRY REPORT

VENEZUELA

Nelson Della Rocca

The Petroquímica Nacional was created in 1953 with the intention of more products from natural gas reservoirs.

The success reached by Petrochemical Industry beginning at 1920 opened the doors for the creations, by the government, of the Petroquímica Nacional.

The Petrochemical Industry more, through several transformations, a wide variety of products such as plastics, tires, synthetic fibers, fertilizers, solvents, etc with are used massively.

In our country, Venezuela, Petroleos de Venezuela have, as other functions, the responsibility of the planifications and establishment of the general rules of this industry. This is done using a filial branch PEQUIVEN, Petroquímica de Venezuela, S. A.

For the elaboration of petrochemical products PEQUIVEN have two complex, one is located at Moro's, Estado Carabobo, which is engaged of the production of fertilizers, nitrogen fertilizers and phosphate fertilizers, and industrial products. The second Complex is placed at El Tablazo at the border of the Lago de Maracaibo which main production is olefins, ammonia and urea.

Also have participation on other industries, foreign or private nationals, such as:

Oxidor at Valencia Venezuela

Química Venoco at Valencia Venezuela

Ferralca at Moro's Venezuela

Produven at Moro's Venezuela

Tripoliven at Moro's Venezuela

Estizulia at Tabbzo Venezoela
Polilago at Tabbzo Venezuela
Quimica Venoco at Tabbzo Venezuela
Monomeros Colombo Venezulanoz Colombia

The petrochemical industry in Venezuela have about 2200 employees wich work at Caracas, Moion, Tablazo.

There is a moving of some offices from Caracas to Maracaibo in order to contribute to take off the crowding of the metro politaneas area.

At complejo Moro's we have the following products:

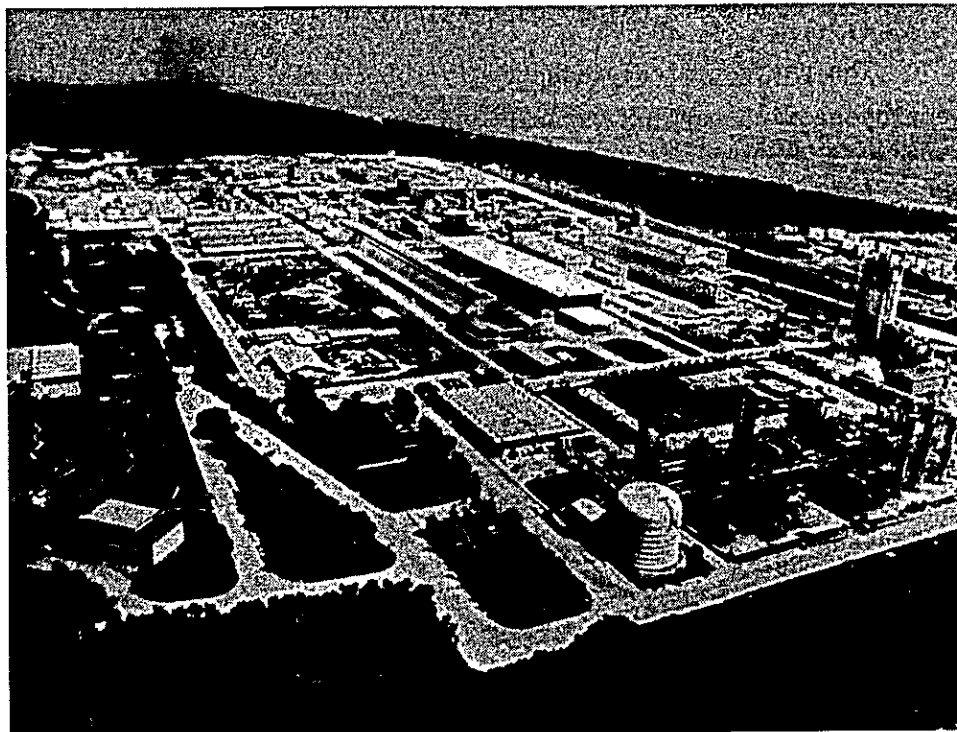
Ammonia
Uria
Ammonium Sulfate
Phosphoric Acid
Sulfuric Acid
Nitric Acid
Oleum
Fertilizers
Alominium Sulfate
Chbride flooridemethanes
Sodium Tripoliphos fate

At complejo Lulia we have the following products:

Ammonia
Urea
Ethilen
Propilen
Cloride
Caustic Soda
Sodium Hiplochloride
PVC
Low density poliethles

Propilen treatrameros

COMPLEJO MORON



The complejo Moro's is located near Puerto Cabello's beach. Nowadays the employees number is about 1000.

Ammonia Plant

At Moron the ammonia is the source to make compounds which contain nitrogen like urea, ammonium sulfate, nitric acid, diammonium phosphate.

The Ammonia Plant have an installed capacity of 198,000 TMA (metric tons year) and was constructed by Mitsubishi Heavy Industries using the process of Chemico.

The raw material is Natural gas.

The CO₂ byproduct is sent to the Urea Plant.

Urea Plant:

Have an installed capacity of 248,000 TMA. The process is property of Sram Progetti (cristalizations and prilling). Uses ammonia and carbon dioxide.

Ammonium Sulfate Plant:

Montecation process, with an installed capacity of 79,200 TMS. The start up was in 1963. Sulfuric Acid and Ammonia are used as raw material.

Nitric Acid Plant

Produces nitric acid by means of the cataletic combustion of the ammonia (Fauser Montecatini process).

The capacity is 61000 TMA (nitric acid 53%) and 9900 TMS (nitric acid 98%)

Sulfuric Acid Plant

The phosphates fertilijers are done by using sulfuric acid. A Monsanto process, uses sulfur as raw material, from desolforigers, and have a capacity of 198000 TMA (sulfuric acid 98%) and 16500 TMA (oleum). Is a simple contact plant.

Phosphoric Acid Plant

With a capacity of 82500 TMA uses sulfuric acid and phosphate rock as raw material in a wet process (Dorn Oliver Inc.).

The acid strength is 54%.

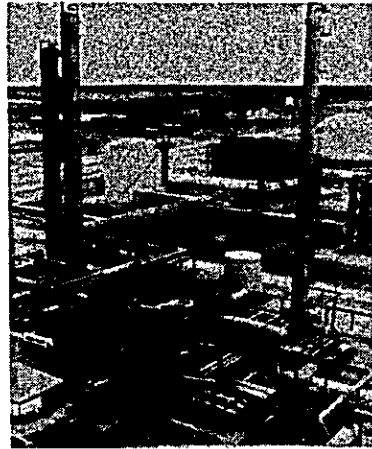
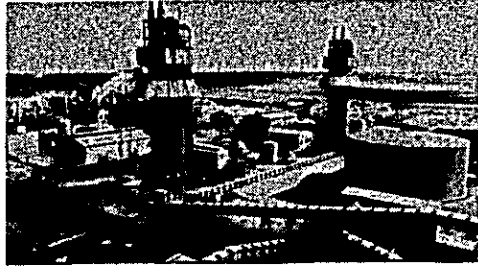
Fertilizer Plant

This plant have the main featore on his versatitity. We can more 290000 TMA of diamoniom phosphate, 303600 TMA of NPK (nitrogen, phosphate, potassion compond) and 462000 TMA of super phosphate granulated.

The raw material is phosphoric acid, sulfuricacid, ammonia.

Is a Dow Oliver Inc process.

COMPLEJO ZULIA EL TABLAZO



The complejo Lulia El Tablazo is placed at north of Puertos de Alta gracia on the east side of the Lago de Maracaiko.

The constructions of this complejo began in 1969 the main protion of him was concluded on 1973.

The complejo Lulia have an extension of 848 hectareas (1 hecets 100 areas) and have enough surface to accept the extension (ampliatioms) of the existing plant as others that may be constructed in the future.

Caustic Soda and Chloro Plant

This plant have an installed capacity of 40000 TMA (Chloro) and 45000 TMA (Caustic Soda). The raw materia is comun salt. Is a Oronzco de Nora process.

Olefins Plant

The olefins plant was designed by Kellg Co., and uses as raw material ethane, propane from a processing gas plant near from Tabbzo.

This plant may produce 150000 TMA (ethilen), 94000 TMA (propilen) when uses propane as raw materia.

Ammonia Plant

El Tablazo have two ammonia plants with C & I Girdler Inc. process with a capacity of 297000 TMA each one. Uses natural gas as raw materia.

Urea Plant

Two urea plants designed by C & I Girdler Inc. with an installed capacity of 396000 TMA each one.

The urea produced at Moro's is for internal use (countre) and the urea produced at Tablozo is for exportations.

PVC Plant

Have a capacity of 40000 TMA of polivinil chloride resins and uses as raw materia cloro and ethilen from chloro Soda and Olefins plants respectively.

Petroguimica de Venezuela also have participation on the so called "Empresas Mixtas" like

Oxidor Deguiven have a 11, 43% of share of stock. This plant have an installed capacity of 12000 TMA of pflatic anhidrid,

Quimica Venoco, C.A. Peguiven (Petroguimica de Venezuela) participates with a 15% of capital. Produces dodelibenzene

Produren 50% of Deguiven's capital makes 9000 TMA cloro-flooro methune

Ferralca 85% of the share of stock belongs to Deguiven. Makes 30000 TMA Cluminium Solfate.

Tripoliven Makes Sodium Tripoliphosphate (30000 TMA) and Peguiven have the property of 33 1/3% fo this industry.

Polilago 59000 TMA of low density polietiles (40% Peguiven)

Estizulia 40000 TMA of poliesthiren (37.5% Peguiven)

Monomerus Colombo Venezolanes Located in Colombia have an installed capacity of 16500 TMA (Caprolactam) and 290000 TMA (Fertilizers NPK). Peguiven's participation reaches 40.1%.


Nelson Della Rocca



Vertical text or markings along the right edge of the page, possibly bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible but appears to contain some numbers and characters.